



岡本眞利子 議員  
(政清会)



近年は保護者の負担軽減を目的として、紙おむつ等のサブスクリプションサービスを導入する保育施設が全国で増えてきている。

(1) 町内の多くの保育施設において、午睡用布団を床に敷いて午睡を行っていることから、床の冷たさ、寝汗等の衛生管理の面で「お昼寝コット」(※1)の導入について検討してはどうか。

(2) 保育施設で使用する紙おむつ一枚一枚に記名する負担を軽減する、紙おむつのサブスクリプションサービス(※2)のニーズの認識と導入についての考えは。

(※1)「お昼寝コット」とは組み立て式で、通気性の良いメッシュ素材の布を張ったお昼寝用簡易ベッド。



## 問 子育て支援の拡充について

**答** 今後、一定数の要望があった場合に保護者のニーズとすり合わせてみる必要がある

(※2)「紙おむつのサブスクリプションサービス」とは定額料金を支払うことで、保育施設等で紙おむつが使い放題になるサービス。

### 町長

(1) (2) 布団や紙おむつのサブスクリプションサービスの提供を望む保護者の声は届いていないが、今後において、一定数の要望があった場合は、町立と私立の施設長等で構成する保育所長会議において協議し、サービスの内容、利用者負担を含めた保護者のニーズとすり合わせてみる必要がある。

### 再質問

保護者の利便性の向上、保育士の業務負担軽減を図るためのサブスクリプションサービスについて、今後調査研究を進め、本町の子育て支援拡充に向けた考えは。

### 答

メリット・デメリットがあり、導入にあたっては、導入希望が出てきた際に協議を行い検討する。



リチウムイオン電池の適正処理方法の周知について

**答** 継続的に周知・啓発に努めていく



近年、リチウムイオン電池による火災が全国的に急増している。環境省において回収体制の構築の要請が出され、幕別町においては体制を整えているが、住民にはわかりづらいという声がある。周知方法の更なる努力、啓発に努めるべきであるが、今後どのように推進していくのか。

(1) リチウムイオン電池の回収の現状について。  
(2) 町内で収集した不燃ごみの中から発煙・発火に至ったケースは。  
(3) 適正処理方法の周知、事故防止に向けた啓発の取組状況は。

### 町長

(1) 一般社団法人JBRRCがリサイクルマーク付き電池の回収と再資源化を担い、家電量販店やホームセンターの回収ボックス、本町役場窓口でも回収を実施。また、リ

サイクルマークの無い二次電池や種類判別が困難な電池についても役場窓口で回収を行っている。

(2) ごみ収集車両の荷箱内部での発煙・発火事故は、令和4年度に2件、5年度に1件、6年度に2件発生。原因は、カセットボンベ、スプレー缶、混合ガソリン缶、ライターの混入によるものが4件、コードレス掃除機のバッテリー混入によるものが1件である。

(3) 適切なごみ処理方法を理解していただくため、毎年「ごみカレンダー」を作成し各戸に配布、ホームページでも情報提供を行っている。また、公式LINEで自動回答する「ごみ分別チャットボット」を運用している。広報紙や出前講座などの機会を活用し、適切な分別方法について継続的に啓発活動を行い、ごみ処理の適正化を図る。

### 再質問

住民がリチウムイオン電池の適正処理ができるよう、わかりやすい周知・啓発に取り組む考えは。

### 答

ホームページの内容は、より分かりやすい表現に随時変更している。来年4月から法律改正により、リチウムイオン電池の資源化が進められることに合わせて、わかりやすい処分方法等の周知啓発に努める。